

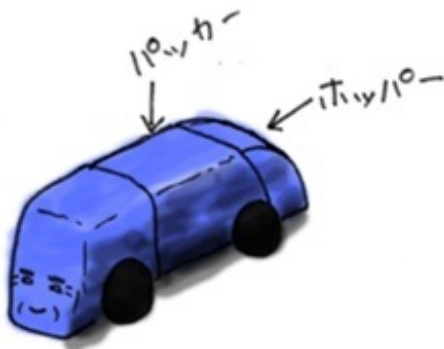


パックのおはなし
～ ごみしゅうしゅうしゃになる～

これは、うまれたばかりの
ごみしゅうしゅうしゃです。



よく、ねていますね。
なまえは、パックといいます。
せいそうきょくのおじさんが
つけてくれたなまえです。



ごみしゅうしゅうしゃには、ぎゅっとごみをおしつぶすホ
ッパーと、
ごみをためておく、パッカーがあります。
ごみからでるよごれたみずをためておくおすいタンクも
パッカーのしたにあります。

でも、パックは、まだあかちゃんなので、
どこが、どこだか、よくわかりませんね。

さて、パックもおおきくなりました。

もうあかちゃんではありません。

りっぱなごみしゅうしゅしゃになるために

きょうもおじさんとれんしゅうです。

「さあパック、まずごみをすてるれんしゅうだ」



「え～、ごみをいっぱいあつめたいよう」



「ごみをすてるれんしゅうができていないと

ごみをあつめすぎたときにすてられなくて、

パッカーがこわれたり、ごみをもらしたりしてしまうんだ。

だから、たいせつなれんしゅうなんだよ」

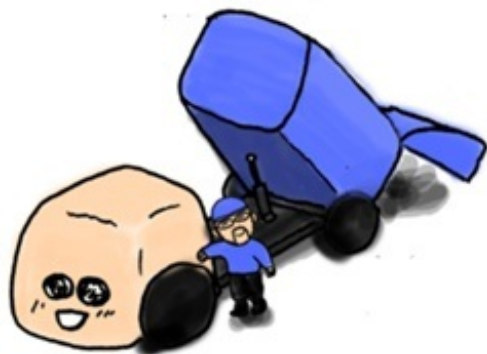
「じゃあ、まずはパッカーをあげるれんしゅうだ。

パッカーをあげるときは、ホッパーもあげて
おかないと、じめんにぶつかってしまうからな」

パックはホッパーをあげたまま、パッカーをあげてみました。
パッカーはおもくて、ホッパーよりずっとちからがいります。



「もっとあげないと、ごみをだせないぞ」
パックは、ふんつとちからをこめて、パッカーを
あげました。もう、かおはまっかです。



「やったあ」

「よし！よくできたな」

そのとたん！

「あぶない！」

パッカーが、がくんとさがってしまい
もうすこしでおじさんが
はさまれてしまうところでした

「パック、パッカーやホッパーは、
しじがあるまで あげたままに しなくちゃだめだ」



「わかったよ、おじさん」



れんしゅうがおわると、まいばん
おじさんがパックをぴかぴかにしてくれます。
おじさんにあらわれていると、いきもちになって
そのままねてしまうこともあります。
りっぱなごみしゅうしゅうしゃになるため、
まいにちパックは、おじさんとれんしゅうしました。

「きょうは、ごみをいれるれんしゅうだ」



「やった～！やっのごみをあつめられるんだね
ぼくパッカーいっぱいに入れるぞ！」

おじさんが、パッカーのホッパーに、ごみをいれます。



「おじさん、もっといっぱい入れてよ」



「こらこら。よくばって、いっぱい詰めこむと じゅうぶんに ごみをつぶせないし
、
ホッパーがつまると、くるしいぞ。」

すこしずつ、ていねいにつぶしてから パッカーに入れるんだ。わかったかい？」

「は～い」

パックはすこしずつ、ごみをつぶしては、

パッカーに入れてゆきました。

「うまいぞ。そのちょうしだ」

だんだん、パッカーがいっぱいになってきて、

おもくなってきたのが、タイヤにもつたわかります。

「どうだ、パック？もういっぱいか？」



「まだまだ、だいじょうぶ。もっとやりたい」

「パッカーがいっぱいになったら、いうんだぞ。」

パッカーがいっぱいになってしまうと、

ホッパーからごみがとびだしてしまうからな」

「わかったよ、おじさん」

ほんとうは、パッカーはもう、いっぱいだったのです。

でも、パックはごみをあつめるのがたのしくて、

やめたくありませんでした。

「だいじょうぶ」

「まだ、だいじょうぶ」

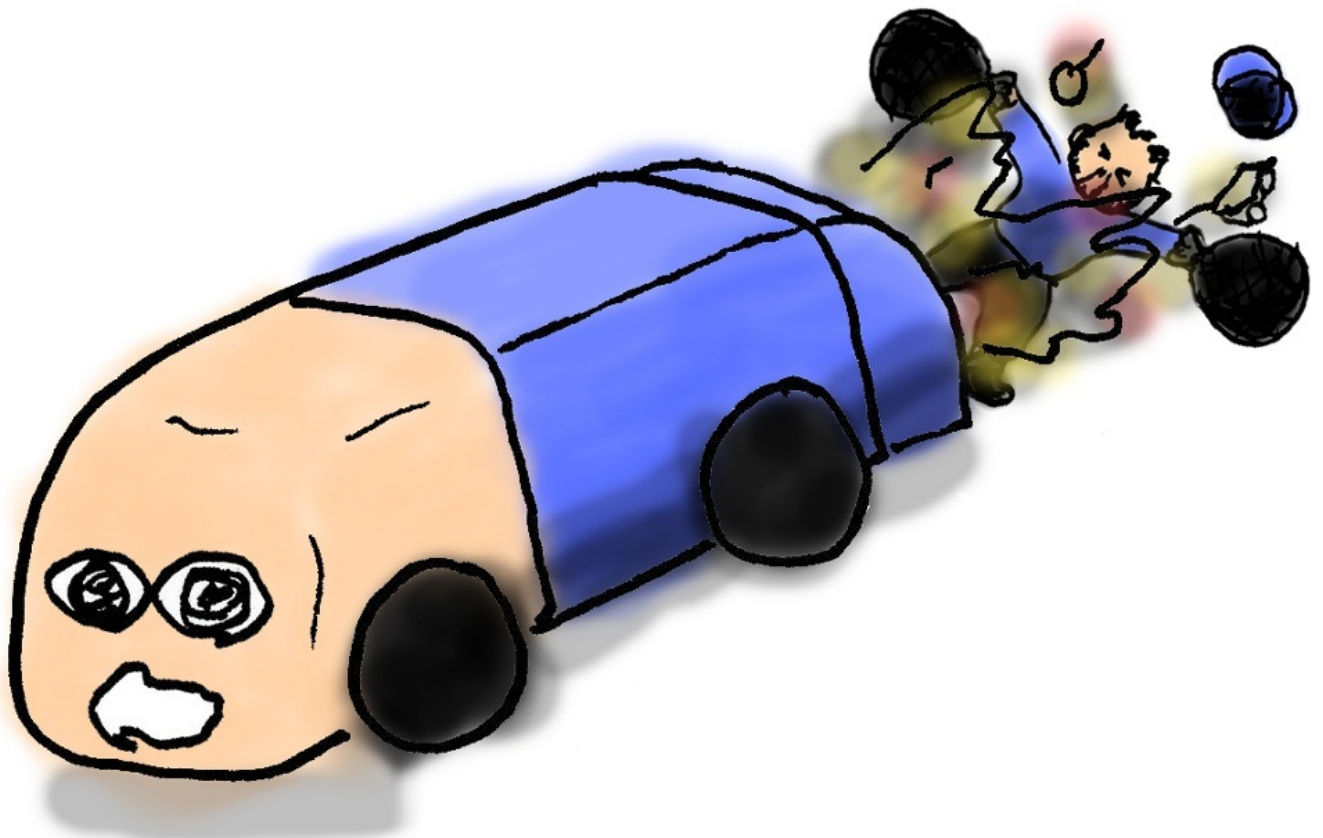
とくりかえしました。





そしておじさんが、ごみをいれたとたん！

ばんっ！ とものすごいおとがして、



ごみがホッパーからとびだしました。
おじさんが、とびだしたごみにとばされました。
「おじさん、ごめんなさい」

おじさんが、ごみをはらいおとしながらいいました。

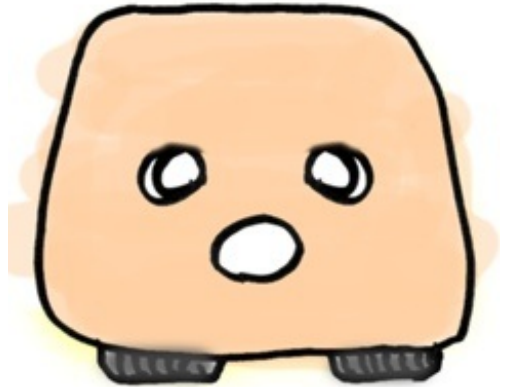


「パック。おじさんのいっていることが、わからなかったのかい？
それとも、わかっていて、いうことをきかなかったのかい？」

パックは、おじさんがおこっているとおもって、こわくて、へんじができませんでした。

「パック、おじさんのいっていることがわからないなら、ききなさい。
もし、おじさんのいっていることがわかっているのに、いうことがきけないなら
おまえを、ごみしゅうしゅうしゃにすることはできない」

パックは、どきりしました。
パックは、ごみしゅうしゅうしゃです。
ごみしゅうしゅうしゃになれないなんて、
かんがえもしませんでした。



「いやだ！ぼくいうこときくから、そんなこといわないで」
パックはいっしょうけんめい、おねがいしました。



でも、おじさんは



「きょうは、ここまでにしよう。
あしたまでに、よくかんがえておきなさい」

とって、かえってしまいました。

「まってよ！おじさん！
ちゃんとするから！」



パックが、どんなにおおきなこえでよんでも、
おじさんはもどってきませんでした。

そのよる、パックがなきながらやすんでいると、
こどものこえがしました。

「きみ、ごみしゅうしゅうしゃなんでしょ？」
そのこはにっこりわらって、パックをみていま
した。

「ぼく、ごみしゅうしゅうしゃが、すきなんだ」
「でも、ぼくは、ごみしゅうしゅうしゃには
なれないかもしれない」

パックは、おじさんにいわれたこととおもいだ
して、

また、かなしくなりました。

「どうしたの？」

そのこが、しんぱいそうにききました。

それで、パックはそれまでのことを、はなしました。

パックのはなしをきくと、そのこは

「ぼくと、おんなじだね」

といました。

パックは、ごみしゅうしゅうしゃのパックと、にんげんのそのこが、おなじといういみが わかり
ませんでした。

だから、おじさんにいわれたこととおもいだして、ききました。

「きみと、ぼくがおなじって、どういうこと？」

「だって、ぼくも、いっぱいたべすぎたり、たのしいことをしていると、
やらなきゃいけないことをしないで、おこられるんだ」

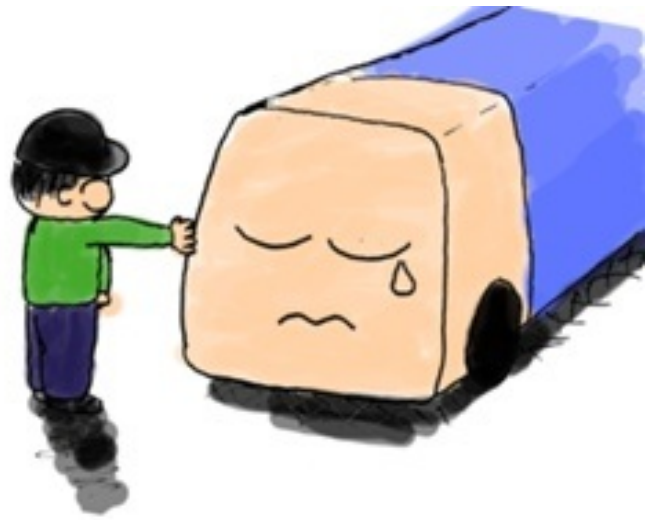
パックは、いみがわかってうれしくなりました。

「そうだね、いっしょだね」

「だから、いっしょにがんばろうよ」

そのこが、やさしくパックにさわりました。

ごみでよごれていたはずの、パックのからだは すっかりきれいになっていました。





おじさんが、パックのねているあいだに
きれいにしてくれたにちがいありません。

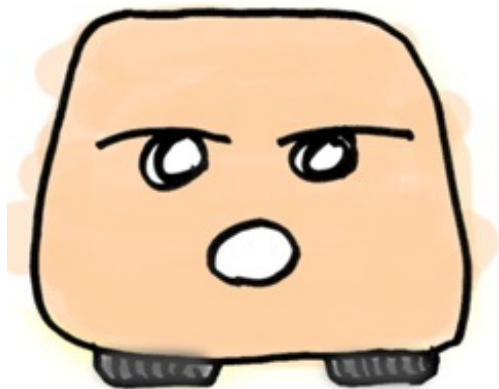
「おじさんは、いつでもやさしいんだ」
そうおもうと、パックはがんろうというきもちが、
いっぱい、いっぱい、わきあがってきました。

「うん！いっしょにがんばろう！」



つぎのひのあさ、おじさんがくるといいました。

「パック、よくかんがえたかい？」



「はい。
ぼく、おじさんのはなしをよくきいて、
がんばって、りっぱなごみしゅうしゅうしゃに
なりたいです」

「わかった。

じゃあ、きょうは、いままでおしえたことをひとりでどれくらいできるか、テストだ」
パックはどきどきしました。

でも、ゆうきをだしてはっきりとこたえました。

「わかりました。がんばります」

テストはせいそうきよくでおこないました。

パックは、あのこがみているのに、きがつきました。

「ぼくも、がんばるからね」



パックは、ごみをすこしずつあつめては、
ていねいにつぶして、パッカーにいれてゆきました。
なんどもくりかえしてゆくと、
だんだんパッカーがいっぱいになってきました。
タイヤにおもさがつたわかります。

パッカーがいっぱいだ、とおもったとき、

パックは、すぐに、ごみすてばにゆきました。

そして、ホッパーをいっぱいにあげると、

そのまま、パッカーをちからいっぱいあげました。

ごみがいっぱいにはいったパッカーは、とても、おもくなっ
ています。

「ぼくは、できる」

「できるんだ」

パックは、ちからとゆうきをだしてもちあげました。

ごみが、パッカーからすべりおちます。

どさ、どさ、どさどさどさどさ...



パックは、みごとにやりとげました。

おじさんが、まんぞくそうにうなずいています。

あのこが、うれしそうに、じゃんぷしています。

パックはおちついて、パッカーをさげ、ホッパーをもとにもどしました。

それから、おじさんのところに、もどりました。

「よくやったな、パック。

きょうからおまえは、ごみしゅうしゅうしゃだ」

おじさんは、やさしくパックをたたきました。

あのこが、はしってやってきました。

「だめだよ。ここはあぶないから！」

おじさんはとめました、もうパックのところまで、きてしまっていました。

「やったね、パック！すごいよ」

「ありがとう。きみのおかげだよ」

「パック、どういうことだい？このこはだれだい？」

パックはきのうのよるのことを、はなしました。

「そうか、じゃあきみは、パックのおともだちだね」

おじさんがそう言うと、そのこはとびあがって よろこびました。

「パック、ぼくたちともだちだって！」

パックもうれしいきもちで、いっぱいでした。

「そうだよ、ぼくたち、ともだちだよ」

これが、パックがごみしゅうしゅうしゃになったときのおはなしです。



パックのおはなし ～ごみしゅうしゅうしゃになる～

<http://p.booklog.jp/book/38403>

著者 : hiroxshu

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hiroxshu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38403>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38403>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.